

令和4年度 調布市立第六中学校 学校評価報告書（学校長 臼倉 美智）

学校の教育目標		
○自ら学び、考える生徒 ○命を大切にする生徒 ○何ごとともやりぬく生徒		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
○「自ら学び、考える生徒」→生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、学力向上を図る学校 ○「命を大切にする生徒」→心の教育を充実させ、生命を尊重し、共に助け合う態度を育てる学校 ○「何ごとともやりぬく生徒」→豊かな体験活動を充実させ、心身ともに健康に生きる態度を育てる学校		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①全体計画及び年間指導計画の策定・改善(通年)、道徳科授業の充実(年35時間)	B	①少人数・習熟度別指導(1~3年数学・英語)、読書週間(2回)、数学ステップアップ教室(6回)、漢字検定(3回)・英語検定(3回)、英語検定直前自習サポート(6回)	B	①学校2020レガシーの取組(通年)、体力向上週間(3月)の取組、部活動加入率(93%)	B
	②全教員による巡回指導(毎朝・通年)、六中いじめ防止対策基本方針(4月)、SNS学校ルール(5月)	B	②校内研修会(授業改善、ICT、特別支援教育等)、生徒による授業評価(全教科2回)、学校公開(5回)と保護者アンケート(2回)	A	②食育(通年、食育便り)、食物アレルギー事故防止研修会(3回)、新しい生活様式への意識啓発(通年・随時)、都・市SCによる全員面接(1・2年)	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①「私は、学校に行くのが楽しい。」の質問項目では、肯定的評価が生徒79.7%、保護者80.7%である。コロナ禍でも前向きに学校生活を過ごしていることが分かる。	A	①授業への集中、忘れ物、宿題忘れ、遅刻等の授業規律に関連して、「私は、授業に意欲的に取り組んでいる。」の質問項目では、肯定的評価が生徒80.7%である。	A	①部活動加入率93%であるが、コロナ禍による活動中のマスク着用が長期化した。	C
②あいさつ運動、六中いじめ防止対策基本方針に基づくいじめの未然防止に関連して、「私は、六中のきまりを理解し、守っている。」の質問項目では、肯定的評価が生徒87.8%である。落ち着いた学校生活であることが分かる。	A	②校内研修会(授業改善1回、ICT10回以上、特別支援教育2回他)に関連して、「教材やプリントなど、授業に様々な工夫をしている先生が多い。」の質問項目では、肯定的評価が生徒87.42%、保護者55.2%である。	B	②講演会後の生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価が概ね多い。	A	
学校関係者評価	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多いので、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。		コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多いので、ICTのスキル向上についても研修を継続してほしい。必要があれば支援をするので、地域の教育力として活用してほしい。		コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多いので、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 キャリア教育と特別支援教育		5 家庭、地域、関係機関との連携		6	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①指導計画の改善(5月末)、検証(2月)、ハローワークの就職支援ナビゲーターによる授業(12月)	B	①地域学校協働本部との連携協力(通年)、数学ステップアップ教室(6回)、英語検定直前自習サポート(6回)	B		
	②校内委員会(年18回)	A				
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
①参加した生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価が概ね多い。	B	①コロナ禍により活動中止が長期化した。「授業や行事などで、地域の人たちから指導してもらえることがある。」の質問項目では、肯定的評価が生徒44.8%、保護者51.4%である。	B			
②年18回程度実施し、教員による自己評価で肯定的評価100%である。	A					
学校関係者評価	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多い。		コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、肯定的評価が概ね多い。			

人材育成・組織運営	
自己評価	①副校長、管理職選考(B選考)合格者に、危機管理や服務管理のトレーニングを積み、校長を補佐する立場として育成する。 ②主幹教諭、主任教諭選考受験によりミドルリーダーを育成する(通年、随時)。 ③全教職員の「人材育成プログラム」を作成(5月)、職務実績記録や業績評価の根拠資料とする。
学校関係者評価	コロナ禍で中止・変更を余儀なくされたが、概ね良好であり、引き続き可能な限り教育活動を継続してほしい。また、課題については組織として検証し改善してほしい。

中期的な経営目標の達成状況	
学校評価の「私は、学校に行くのが楽しい。」の質問項目では、肯定的評価が生徒79.7%であり、コロナ禍でも前向きに学校生活を過ごしていることが分かる。保護者への同じ質問項目「子供は学校へ行くのが楽しいようである。」では、肯定的評価が保護者80.7%であり、生徒との差はない。今後も「通うのが楽しくなる学校」を目指した教育活動の充実に努める。	
次年度の重点課題	
コロナ禍で学校行事や部活動について中止・変更を余儀なくされたが、各教育活動のねらいを明確にしながら、柔軟かつ適切にアフターコロナにおける教育活動を継続していく。特に、基づく1人1台モバイル端末を活用しながら、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業改善に努める。	